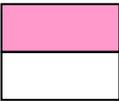


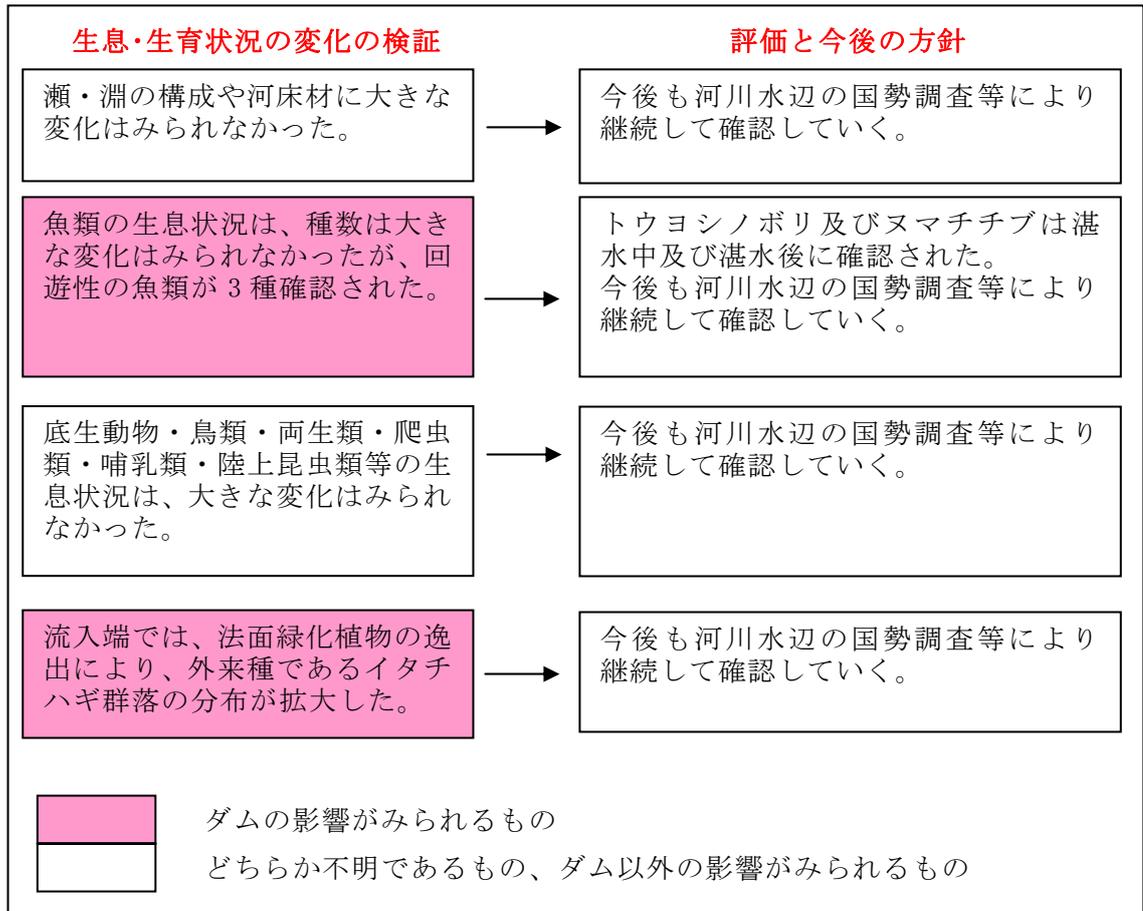
6.5 まとめ

ダム湖内、流入河川、下流河川、ダム湖周辺と環境区分毎に考えられる環境要因と生物の生息・生育との関係を整理し、まとめた内容を以下に示す。

(1) ダム湖内

生息・生育状況の変化の検証	評価と今後の方針
<p>魚類の生息状況は、湛水後にカワムツが減少し、ヌマチチブが増加した。 また、特定外来生物であるブルーギル及びオオクチバスが確認されている。</p>	<p>止水環境の存在や遊漁利用により、止水環境に適応した放流魚が定着するようになった。 今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。 また、特定外来生物については、釣りなどの湖面利用の状況を勘案した上で対応を検討する。</p>
<p>アユはダム湖を利用して回遊、再生産していることが確認された。</p>	<p>今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
<p>底生動物の生息状況は、止水性の環境に生息する種が優占していた。</p>	<p>流水性の種がみられなくなり、止水性の種が増加してくと思われる。今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
<p>鳥類の生息状況は、湛水域の出現により種数が変化し、カイツブリやカワウ、カモ類等のダム湖面を利用する水鳥が増加し、イカルチドリのような河川の中州などの砂礫地に生息する水鳥がみられなくなった。</p>	<p>ダム湖ができたことで止水環境を利用する種が増加しており、今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
<p>湾入部では、法面緑化植物の逸出により、外来種であるイタチハギ群落の分布が拡大した。</p>	<p>ダムの完成によりイタチハギが繁茂しやすい状況となっている。今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
	<p>ダムの影響がみられるもの どちらか不明であるもの、ダム以外の影響がみられるもの</p>

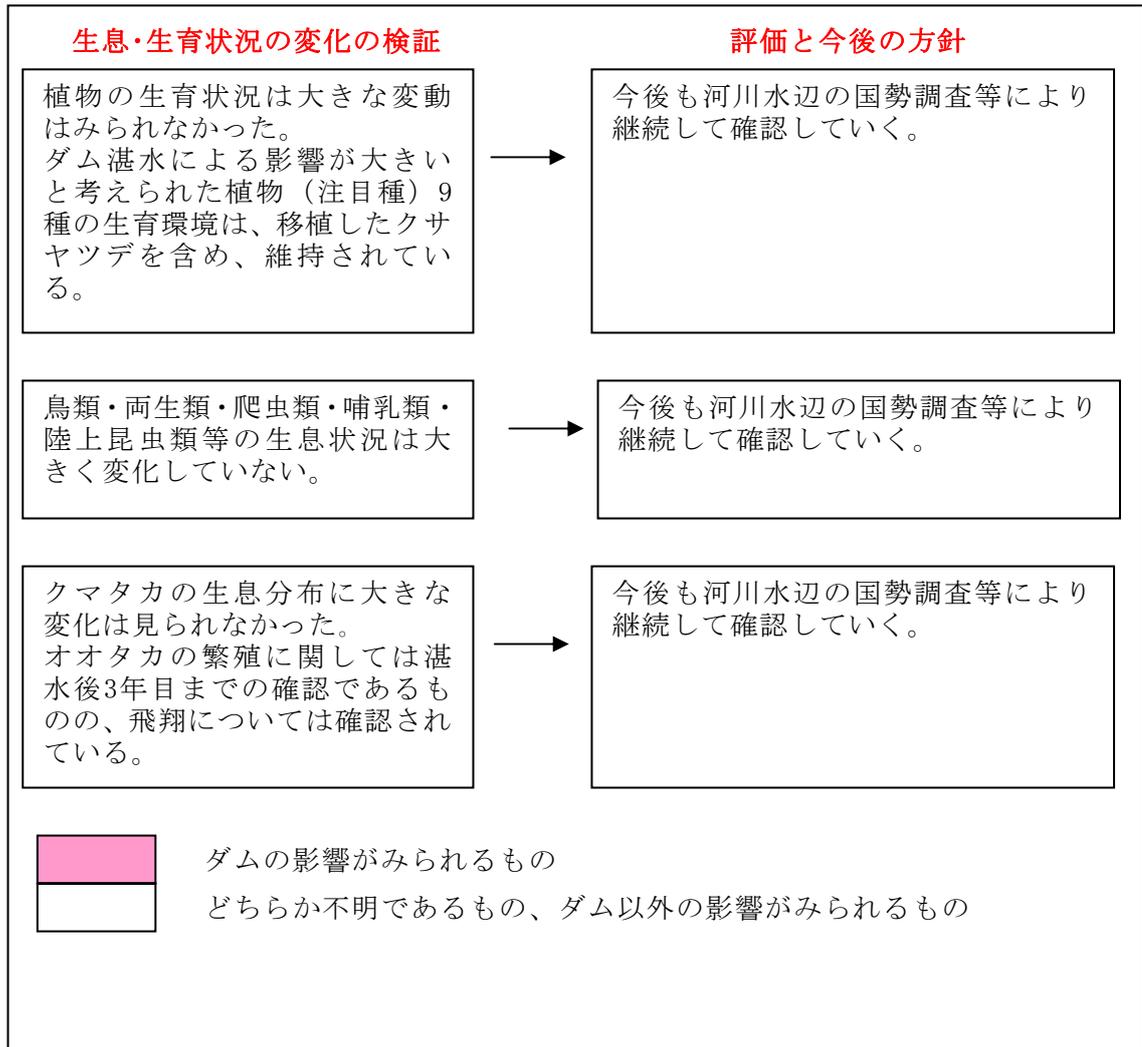
(2) 流入河川



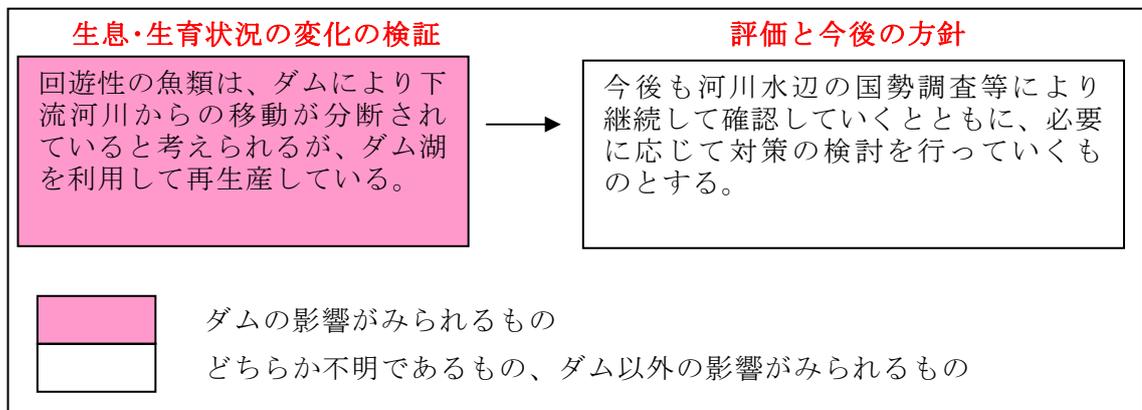
(3) 下流河川

生息・生育状況の変化の検証	評価と今後の方針
<p>ダムの供用による土砂供給の減少により河床材料が変化し、また、流況が安定したため、ツルヨシ群落が分布を拡大したと考えられる。</p>	<p>今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。また、ダム下流への土砂供給を検討・実施していく。</p>
<p>魚類の生息状況は、底生魚を中心として種類数が減少している。</p>	<p>下流河川は河床の土砂が減少するなどの変化が確認されている。今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。また、ダム下流への土砂供給を検討・実施していく。</p>
<p>植物の生育状況は、湛水前より湛水後に種数が増加した。また、外来種も確認されている。</p>	<p>今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
<p>鳥類の生息状況は、サギ類やカモ類、シギ・チドリ類の確認種類数が減少している。</p>	<p>下流河川は河床の土砂が減少するなどの変化が確認されており、砂泥地に生息する鳥類の生息環境が変化した可能性が考えられる。今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
<p>両生類・爬虫類・哺乳類の生息状況は大きく変化していない。</p>	<p>今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
<p>陸上昆虫類の生息状況は、カラゴミムシやハンミョウ類などの種数が減少している。</p>	<p>下流河川は河床の土砂が減少するなどの変化が確認されており、河川敷の砂地に生息する陸上昆虫類の生息環境が変化した可能性が考えられる。外来種も確認されており、今後も河川水辺の国勢調査等により継続して確認していく。</p>
	<p>ダムの影響がみられるもの どちらか不明であるもの、ダム以外の影響がみられるもの</p>

(4) ダム湖周辺



(5) 連続性の観点からみた生物の生息・生育の状況



(6) 生物のまとめ

ダム湖内は、止水性の魚類や底生動物の生息が確認されたほか、水鳥の利用が確認されるなど生物の生息場として機能している。その一方で、特定外来生物であるブルーギル及びオオクチバスが確認され、在来種への影響も懸念される。

ダム流入河川では、瀬・淵の構成や河床材に大きな変化はみられず、また、魚類をはじめとした生物の生息状況に大きな変化はみられなかった。その一方で、流入端では、法面緑化植物の逸出により、外来種であるイタチハギ群落の分布が確認されたほか、特定外来生物のオオカワヂシャが確認されており、在来種への影響も懸念される。

ダム下流河川では、土砂供給の減少による河床の変化がみられており、底生魚類をはじめとした生物の生息環境に影響を与えていることが懸念される。また、流況の安定により、河道のツルヨシ群落が分布を拡大した。

ダム湖周辺の動植物の生息状況に大きな変化はみられず、ダム湛水による影響が大きいと考えられた植物（注目種）9種の生育環境は、移植したクサヤツデを含め、維持されている。希少猛禽類のクマタカには大きな変化はみられず、オオタカの繁殖に関しては湛水後3年目までの確認であるものの、飛翔については確認されている。

【今後の方針】

比奈知ダム及びその周辺における動植物の生息・生育状況については、全体的に大きな変化は見られなかった。しかし、魚類や底生動物、鳥類などは湛水域の存在や土砂供給の減少による下流河川の河床の変化の影響を受けていると思われる。また、外来種に関しては在来種への影響等が懸念されることなどから、今後も継続して調査を行い、その対応について検討を行う。